

## ご挨拶

皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

わが国は世界の先頭にたって長寿化・高齢化の道を進んでおり、1980年にはわずか千人ほどだった100歳以上の人口が、2018年1月には6万8千人に達し、「人生100年時代」がいよいよ現実のものとなりつつあります。

少子高齢社会においては、年金や医療・介護などの社会保障制度や地域包括ケアシステムの整備といった国や自治体等の取り組みが重要であることは論を待ちません。しかし、長い人生を豊かに生き抜くためには、私たち一人ひとりが100歳の自分自身をイメージし、それに向けて健康面・経済面・生きがい面での準備を怠らない心構えも欠かせません。

当財団はお蔭さまで本年6月に設立25周年を迎えることができました。1993年の設立以来、民間研究機関として高齢社会における健康・経済・生きがい等に関する様々な問題に取り組み、調査・研究成果を広く社会に発信するとともに、一般への普及活動にも努めてまいりました。

2017年秋には、一般向けシンポジウム「100歳までのライフプランー将来の経済リスクに今から備えるー」を開催しました。漠然と抱きがちな老後の不安を、具体的なリスクとして認識することで、とるべき対策が明らかになるのではないかと問いかけ、老後に向けた経済準備についてさまざまな角度から議論しました。当シンポジウムの内容は、刊行物、ホームページを通じて広く公開しております。

当財団が取り組む課題は膨大ですが、小所帯ゆえ単独での展開には限りがあります。これまでも行政・学会・産業界・民間諸団体ならびに高齢者の皆さまにご支援・ご指導いただきながら、事業を進めてまいりましたが、今後も引き続き多くの方々と連携しつつ、実りある調査研究に努めてまいりたいと考えております。

本レポートは当財団の現状と2017年度における活動実績をできるだけ分かりやすくご報告するものです。

皆さまにおかれましては、引き続き幅広いご支援、ご指導を賜りますとともに、財団の諸活動につきまして忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。



理事長 石塚 博昭